

全国でひろがる家庭教育支援の取組紹介・ 応援メッセージ

文部科学省は全国各地の取組を応援しています。

喜多方市家庭教育支援チーム「もも」
(福島県喜多方市)



NPO 法人ポポーのひろば
(山形県村山市)



青森県教育委員会
(青森県)



南魚沼市家庭教育支援チーム
「だんぼの部屋」
(新潟県南魚沼市)



子育てサポーター「らびっと」&
家庭教育支援チーム「ぶらんこ」
(宮城県亘理町)



橘子育て応援隊
(長崎県)



湯浅町家庭教育支援チーム
「とらいあんぐる」
(和歌山県湯浅町)



スマイル・サポートチーム
(大阪府泉大津市)



岐阜県教育委員会
(岐阜県)



地域の未来をつくる家庭教育支援 ～つなぐ・つながる～

(青森県教育委員会)

取組のきっかけ

青森県教育委員会では、平成20年度から平成22年度まで、国の委託事業等を活用し、行政と子育て支援者との連携による家庭教育支援に取り組みました。それは、小学生の保護者を対象に実施した調査から、「子育ての責任を家庭だけで負う傾向があり、地域とのつながりが希薄である」ことがわかり、今後の家庭教育支援は、「地域みんなで支えあうことを理解し、親同士や地域とのつながりをつくるような取組」を進める必要があると考えたためです。

しかけは、親と地域のつなぎ手

この取組では、子育て支援者が地域と家庭のつなぎ手の役目を担っています。これまで養成してきた子育て支援者を中心に、保健師や養護教諭等の専門家の参画も得て「家庭教育支援チーム」を設置しました。支援チームは、公民館等を拠点に、家庭や学校、企業等に積極的に出向いて支援を行います。

そして、「親や地域との関係をつくること」、「地域でできる支援を開発すること」、「支援のための連携体制をつくること」を目指します。本県では、市町村教育委員会と連携しながら16チームがモデル事業に取り組みました。

親や地域との関係づくりは少しずつ

親との関係づくりと一言で言うものの簡単ではなく、少しずつ進めました。1年目は、とにかく「支援チーム」を知ってもらうため、積極的に関係機関・団体、学校に出向きました。特に、小学校との関係づくりは、支援チームが親からの信頼を得るのに大変有効でした。2年目は、関係づくりができた関係機関・団体、学校を定期的に訪問して、情報の収集・ニーズの把握とそれに対応した支援を実施しました。特に個別の相談に対する親の満足度は高く、支援チームに対する信頼は大きいものになりました。3年目は、支援を継続していけるよう、関係機関・団体、学校との連携強化を目指しました。

コラボで広がる新しい支援

情報の収集やニーズの把握により、地域課題が見えてくると、それに対応するため、地域の関係機関・団体、学校と連携して、様々な支援の取組が生まれました。例えば、相談専門機関×支援チームで個別相談を充実させたり、企業×支援チームでショッピングセンターでの相談サロンが実現しました。コラボの一例をご紹介します。 ※コラボ = 出会いとつながり・連携

コラボの例

- ・ 小学校×支援チーム×親(外ヶ浜町平館)
「参観日出前型子育てサロン」



小学生の親が交流します。参観日のついでに参加できます。

- ・ 保健福祉部局×支援チーム(青森市浪岡)
「乳幼児健診での講座」



保健福祉部局との連携で講座や体験のプログラムが増えます。

- ・ 町内会×支援チーム×親子(鯉ヶ沢町)
「親子でかかしづくり」



若い世代が地域の行事を盛り上げます。

・公民館×支援チーム×地域の団体×高校生(五所川原市
金木・市浦)「親とこどものまつり」



世代間交流ができ、みんなで子育てを応援します。

取組から聞こえる、みんなの声

地域：情報紙を見て家庭教育支援の活動に気づきました。私にも何かできるかな。

子育て中の親：子どもの成長を見通せるようになって子育てに自信ができました。落ち着いたら、私も支援に関わりたいな。子育ての悩みを話したとき、交流会に参加していたお母さんが「大丈夫、私もだよ」とたくさんの励ましや体験を教えてくださいました。支えてくれる人がいてとてもうれしかった。

支援チーム：地域の団体等と少しずつつながりをつくり、顔の見える関係になると、思いが共有されて様々な形で支援が実現されました。これからも少しずつ「地域みんなで家庭教育支援」を広げたいです。

行政：子育て支援者が地域の支援の重要な担い手になりました。子育て支援者をつなぎ手に地域団体等が協力し始めています。また、支援に関わる地域住民も増えてきました。

取組の成果 ～ともに育ち、つながり続ける～

取組の成果として、保護者の64.3%が支援チームを「地域に見守ってくれる、話を聞いてくれる人がいて安心である」と評価しており、親と地域とのつながりづくりが進み、安心感を与えたことがわかりました。

人と人のつながりによる「地域みんなで家庭教育支援」が地域に広がってきていることがわかります。

今後の展望として、各支援チームからは、支援の取組と連携を継続するために、支援チームのさらなる資質向上を図るとともに、地域の連携を強化するためのネットワーク形成や次世代の支援者の育成など、行政と連携する新たなアイデアが出されています。

そして、平成23年度からは、市町村教育委員会が主体となり、行政と支援チームの連携による家庭教育支援を展開しています。

おわりに・・・応援メッセージにかえて

ここで紹介した取組は、「地域みんなで家庭教育支援」の一つの仕組みです。家庭教育支援は地域の誰でもができ、そして、地域の未来をつくる活動です。皆さんが地域で行う活動の参考になれば幸いです。最後に、青森市浪岡の支援チームから、被災地の皆様に応援メッセージがあります。

「大切な人を失う悲しみに・・・励ます言葉が見つかりませんが、心からご冥福をお祈りいたします。被災の中、進んで人とつながり、ボランティアをしている子どもたちの輝く目に「今、子どもたちが変わった。日本は大丈夫!!」と思いました。私たちもこれからの子どもたちのために、家庭教育支援をがんばります。」(N.Kさん)

「今も大変な生活を強いられている被災者の皆さんを思うと、同じ東北人として心が痛みます。昨日より今日、今日より明日、ほんの少しずつでも悲しみが癒されることを願っています。」(K.Kさん)

チーム名：青森県内の家庭教育支援チーム

活動開始：平成20年4月～

活動人数：16チーム、85人(平成23年3月末現在)

活動している市町村地区：(平成23年3月末現在)

青森市、青森市浪岡、今別町、蓬田村、外ヶ浜町蟹田、外ヶ浜町平館、外ヶ浜町三厩、五所川原市、五所川原市金木・市浦、鱒ヶ沢町、藤崎町、七戸町、横浜町、八戸市三条小学校区、八戸市城北小学校区、階上町

団体住所(連絡先など)：青森県教育庁 生涯学習課
TEL：017-734-9890